

Ⅱ 調査結果の概要

1 暮らし向き

問1 昨年に比べての暮らし向き

- ・「良くなった」 5.1% [「かなり良くなった」 0.7% + 「少し良くなった」 4.4%]
- ・「悪くなった」 39.4% [「かなり悪くなった」10.1% + 「少し悪くなった」 29.3%]
- ・「変わらない」 54.0%

- ◆平成25年11月の調査（以下「前回調査」という。）と比較・・・大きな変化なし。
- ◆「悪くなった」は、女性の方が4.2ポイント多い。

問1-1 暮らし向きが悪くなった理由

- ・「日常の生活費が増えた」 37.7%
→男女共に最多。宇摩圏域 (46.7%) 及び新居浜・西条圏域 (45.0%) で多い。
- ・「収入が減った（働き手が減った）」 32.1%
→八幡浜・大洲圏域 (38.3%) 及び宇和島圏域 (37.5%) で多い。
- ・「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」 11.9%
→女性の方が多い。

- ◆前回調査比・・・「日常の生活費が増えた」が16.2ポイント増、「収入が減った（働き手が減った）」が13.2ポイント減。

問2 暮らし向きの変化

- ・「良くなった」・・・[「道路など公共施設による便利さ」9.8% 「電気器具、家具、自動車など耐久消費財」8.0% 「所得・収入」7.6%]
- ・「悪くなった」・・・[「貯蓄」49.0% 「所得・収入」41.5% 「レジャー・余暇生活」35.8%]
- ・「変わらない」・・・[「通勤や買物の便利さ」82.5% 「道路など公共施設による便利さ」78.6% 「住宅」75.7%]

- ◆前回調査比・・・「良くなった」が「所得・収入」及び「貯蓄」を除いて減。

問3 暮らし向きの程度

- ・「上」 0.4%
- ・「中」 78.1% [「中の上」8.0% + 「中の中」35.1% + 「中の下」35.0%]
- ・「下」 14.4%

- ◆前回調査比・・・20歳代で「中の下」が11.2ポイント増。

問4 資産の程度

- ・「上」 0.5%
- ・「中」 65.2% [「中の上」7.8% + 「中の中」25.2% + 「中の下」32.2%]
- ・「下」 25.2%

問5 生活のゆとり感

- ・「かなりゆとりがある」 12.2%
- ・「少しゆとりがある方だと思う」 39.1%
- ・「あまりゆとりがない方だと思う」 34.7%
→勤め人 (50.0%) で特に多い。
- ・「全くゆとりはない」 11.1%

問6 暮らしに対する満足度

- ・「満足している」 64.7% [「十分満足している」7.3% + 「十分とはいえないが、一応満足している」57.4%]
- ・「不満だ」 32.3% [「まだまだ不満だ」23.6% + 「きわめて不満だ」8.7%]

- ◆全年齢層及び全職種で「満足」が「不満」を上回っている。

問7 日常生活での悩みや不安

- ・「老後の生活設計や家族の介護について」 59.6%
→50歳代(73.1%)で特に多い。
- ・「自分の健康について」 58.5%
- ・「家族の健康について」 56.8%
- ・「今後の生活費の見通しについて」 50.6%

◆20歳代で「自分の生活(進学、就職、結婚など)上の問題について」が54.2%で特に多い。

問8 普段の生活で不足しているもの

- ・「収入」 44.7%
→男女共に最多で特に多い(男性45.8%、女性44.0%)。全年齢層及び全職種で最多。
- ・「自由に使える時間」 13.0%
→30歳代(29.1%)で最多。
- ・「資産(土地、家屋、預貯金等)」 7.7%
- ・「友人・仲間」 4.3%

◆60歳代以上で「特にない」が特に多い。

問9 自由時間と収入についての考え方

- ・「自由時間を減らしても、現在以上の収入を得たい」 28.4%
→前回調査より、自営業で13.7ポイント減
- ・「自由時間が減るくらいなら、収入は現在のままで良い」 40.8%
→男女共に最多(男性42.6%、女性39.4%)。前回調査より、30歳代で14.1ポイント増。

◆70歳代、主婦及びその他で「わからない」が最多。

問10 日常生活で充実感を感じる時

- ・「家族団らんの時」 22.0%
→女性(22.6%)で最多。30歳代(36.1%)及び40歳代(31.6%)で最多。
- ・「趣味やスポーツに熱中している時」 19.9% →男性(24.8%)で最多。
- ・「ゆったりと休養している時」 12.7%
- ・「友人や知人と会合・雑談している時」 12.3% →20歳代(23.9%)で最多。

◆前回調査比・・・20歳代では「勉強や教養に身を入れている時」が9.7ポイント増。

問11 暮らしの先行き観

- ・「良くなっていく」 8.5% →前回調査より、30歳代で10.8ポイント増
- ・「変わらない」 35.0% →20歳代から40歳代で最多。
- ・「悪くなっていく」 39.2% →50歳代以上で最多で年齢層が高いほど多い。
- ・「わからない」 17.3%

問12 改善したい暮らし向き(今後の暮らしで力を入れたい項目)

- ・「貯蓄」 31.7%
→男女共に最多(男性26.2%、女性35.4%)。20歳代から50歳代で最多。20歳代(61.2%)で特に多い。
- ・「食生活」 16.7% →70歳以上(31.5%)で最多。
- ・「旅行・レジャー・余暇生活」 16.2% →60歳代(27.8%)で最多。
- ・「教育・教養」 7.5%

◆前回調査比・・・「食生活」(16.7%)は平成13年調査以降最も多い。

問13 今後の暮らしに対する考え方

- ・「物質的にはある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をする
ことに重きをおきたい」 22.7%
- ・「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」 17.3%
- ・「一概にはいえない」 45.3% →40歳代(53.3%)で最多。

◆前回調査比・・・「一概にはいえない」が20歳代で13.2ポイント減、40歳代で9.8ポイ

ント増。

問13-1 「心の豊かさやゆとり」の具体的内容

- ・「健康を大切にする」 36.0%
- ・「家族・友人とのふれあいを大切にする」 25.7%
- ・「趣味や習い事に生きがいを見つける」 19.4%

問13-2 「物質的な面」の具体的内容

- ・「耐久消費財（立派な家具、最新の自動車・電気器具など）のそろった快適な暮らし」 31.0%
→平成23年調査から増加で、前回調査より、8.3ポイント増。
- ・「広くて設備の整った家に住む」 23.6%
- ・「趣味・娯楽に関する良いものを購入する」 17.8%

2 広報・広聴

問14 県の広報活動の周知度（県の広報活動のうち知っているもの）

- ・「広報紙「愛顔のえひめ」」 47.1%
→50歳代以上で最多、30歳代以下で特に少ない。宇摩圏域を除く全圏域で最多。
- ・「テレビ広報番組」 42.3% →40歳代以下で最多。
- ・「県ホームページ」 12.3% →60歳代以上で特に少ない。
- ・「ラジオ広報番組」 9.1%

◆前回調査比・・・「テレビ広報番組」が全圏域で増。

◆宇摩圏域では「どれも知らなかった」（39.1%）で最多。

問15 県のテレビ広報番組の視聴経験

- ・「見たことがある」 39.4%
- ・「見たことがない」 60.6%

◆前回調査比・・・「見たことがない」が全年齢層で減（特に20歳代10.6ポイント減及び30歳代15.6ポイント減）。また、全圏域で減。

問15-1 テレビ広報番組を見ての感想

- ・「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」 20.8%
→前回調査より、60歳代で17.1ポイント特に減
- ・「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」 51.1%
→全年齢層で最多。前回調査より、70歳以上で11.0ポイント特に増。
- ・「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」 13.3%
- ・「番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい」 8.0%

◆前回調査比・・・「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」が全年齢層で減

問15-2 「見たことがない」理由

- ・「放送されていることを知らなかった」 59.5%
→全年齢層で最多。60歳代以上で特に多い。
- ・「仕事の都合などで、現在の放送時間では見るできない」 14.8%
→前回調査より、20歳代で20.2ポイント特に増。
- ・「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」 11.6%

問16 県のラジオ広報番組の聴取経験

- ・「FM 愛顔のえひめ（FM愛媛）」 6.5%
- ・「週刊 愛顔のえひめ（南海放送ラジオ）」 5.6%
- ・「どれも聞いたことがない」 89.4%
→全年齢層で特に多い。全圏域で特に多い。

◆前回調査比・・・大きな変化なし。

問16-1 ラジオ広報番組を聞いての感想

- ・「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」 24.5%
→20歳代 (42.9%) 及び40歳代 (35.0%) で最多。
- ・「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」 47.2%
→60歳代 (71.4%) 及び70歳以上 (57.1%) で最多で特に多い。
- ・「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」 15.1%
- ・「番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい」 6.6%

問16-2 「どれも聞いたことがない」理由

- ・「放送されていることを知らなかった」 47.7% →全年齢層で最多。
- ・「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」 17.0%
→40歳代 (23.8%) 及び50歳代 (27.7%) で多い。
- ・「広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない」 6.2%

◆前回調査比・・・「放送されていることを知らなかった」が5.0ポイント減。

問17 広報紙「愛顔のえひめ」の周知度

- ・「知っていた」 53.8% →40歳代以上で多い。
- ・「知らなかった」 46.2%

問17-1 広報紙「愛顔のえひめ」をどの程度読んでいるか

- ・「全体をよく読んでいる」 15.5%
- ・「興味のあるところを選んで読んでいる」 53.2%
→全年齢層で最多。40歳代 (68.1%) 及び50歳代 (61.5%) で特に多い。
- ・「見出し程度しか読まない」 17.2%
- ・「ほとんど読むことはない」 12.3%

問17-2 広報紙「愛顔のえひめ」の感想

- ・「紙面は見やすく、情報量も適当である」 57.0%
→全年齢層で最多。70歳以上 (62.7%) で多く、前回調査より、16.6ポイント特に増。
- ・「紙面は見づらいが、情報量は適当である」 13.5%
→前回調査より、20歳代で8.6ポイント増。
- ・「紙面は見やすいが、情報量が少ない」 17.2%
- ・「紙面は見づらく、情報量も少ない」 2.6%

問18 広報紙「愛顔のえひめ」に取り上げるテーマの希望

- ・「県の行事・イベント・施設の紹介」 60.0%
→男女共に最多 (男性53.7%、女性64.2%)。農林漁業及びその他を除く全職種で最多。
50歳代以下で最多。
- ・「介護や福祉、医療に関すること」 51.9%
→主婦で同率で最多。その他で最多。60歳代以上で最多。
- ・「消費生活や暮らしに関すること」 49.8%
- ・「災害対策に関すること」 29.2%
- ・「県の施策の紹介」 17.8%

◆農林漁業では「農林水産業に関すること」が64.1%で最多で特に多い。

問19 県政情報の情報源 (情報を得る方法)

- ・「テレビ」 59.7% →全年齢層で最多。全圏域で最多。
- ・「新聞」 48.2%
→30歳代以下で特に少ない。前回調査より、宇摩圏域で14.9ポイント特に減。
- ・「市町が発行している広報紙 (誌)」 29.9%
→50歳代以上で多い。
- ・「県の広報紙」 28.4%

◆宇和島圏域では「ポスター・パンフレット・チラシ」(28.6%)が特に多い。

問20 今後の広報活動の取組み

- ・「県の広報番組(テレビ・ラジオ)の充実(放送回数や放送時間の増)」 59.2%
→全年齢層で最多。全職種で最多、農林漁業(71.7%)で特に多い。全圏域で最多。
- ・「県の広報紙の充実(発行回数やページ数の増)」 38.4%
→30歳代以下で少ない。
- ・「刊行物、ポスター、パンフレットの充実(種類や部数の増)」 26.6%
- ・「記者発表などマスコミの活用の充実」 20.9%

問21 県政について知りたい情報

- ・「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」 34.9%
→女性(40.8%)で最多。50歳代以下で最多。前回調査より、30歳代で10.9ポイント増、40歳代で10.8ポイント増。
- ・「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」 31.1%
→男性(35.5%)で最多。60歳代以上で最多。
- ・「県の施設の紹介や利用方法」 23.7%
- ・「県の行事や催しものなどのお知らせ」 22.3%

◆前回調査比・・・「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」が6.7ポイント増。

問22 県民の声を県政に反映させる手段

- ・「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」 32.6%
→男女共に最多(男性29.5%、女性34.6%)。40歳代以上で最多。
- ・「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」 24.6%
→30歳代以下で最多。
- ・「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」 10.3%
- ・「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」 8.0%
→20歳代(17.1%)で特に多く、前回調査より、8.8ポイント増。

◆前回調査比・・・大きな変化なし。

問23 県民の声(県への意見、要望等)の伝達方法

- ・「県に電話をかける」 20.7%
→男女共に最多(男性21.6%、女性20.4%)。70歳以上を除く全年齢層で最多。農林漁業を除く全職種で最多。八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域を除く全圏域で最多。
- ・「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」 12.4%
- ・「市町を通じる」 11.4%
→農林漁業(27.1%)で最多で特に多い。八幡浜・大洲圏域(27.6%)及び宇和島圏域(21.3%)で最多で特に多い。
- ・「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」 7.6%
→70歳以上(13.8%)で最多。農林漁業(20.8%)で特に多い。

◆前回調査比・・・大きな変化なし。

問24 県政出前講座の周知度

- ・「知っていた」 9.4% →30歳代を除く全年齢層で増。
- ・「知らなかった」 90.6%

問25 県政出前講座を利用したいかどうか

- ・「利用したい」 16.5% →70歳代以上(21.6%)で最多。
- ・「利用したいとは思わない」 25.2% →30歳代(31.0%)で最多。
- ・「わからない」 58.3%

◆前回調査比・・・大きな変化なし

問25-1 利用したいとは思わない理由

- ・「利用する時間がないから」 26.2%
→40歳代以下で最多。
 - ・「県政に興味が無いから」 19.4% →70歳以上 (25.0%) で最多。20歳代 (31.8%) で多い。
 - ・「講座は難しそうなイメージがあるから」 17.2% →50歳代 (25.4%) で最多。
 - ・「設定されている講座テーマを知らないから」 11.8%
- ◆「特になし」は60歳代 (26.8%) で最多。

3 愛媛県のイメージ

問26 現在の愛媛県のイメージ

- ・「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」 85.6%
→男女共 (男性82.7%、女性87.4%)、全年齢層、全圏域及び全職種で最多で特に多い。
- ・「物価が安い」 23.0% →松山圏域 (32.2%) で多い。
- ・「文化、スポーツ活動が盛んである」 23.0%
- ・「不便である」 22.2% →前回調査より、宇和島圏域 (33.3%) で13.4ポイント特に減。

◆前回調査比・・・大きな変化なし。

◆宇摩圏域では「経済や産業が盛んである」が特に多い。

問27 将来なりたい愛媛県のイメージ

- ・「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」 55.0%
→男性 (57.7%) で最多。50歳代を除く全年齢層で最多。全圏域で最多。全職種で最多。
前回調査より、農林漁業で10.5ポイント特に減。
- ・「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」 48.5%
→女性 (53.9%) で最多。50歳代 (56.4%) で最多。
- ・「高齢者や障害者にもやさしい」 30.3%
- ・「物価が安い」 23.1%

◆前回調査比・・・大きな変化なし。

◆30歳代では「女性がいきいきと活躍できる」が特に多い。

4 県政への要望

問28 産業面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「雇用対策」 33.5%
→男女共に最多で、女性 (39.1%) が特に多い。全年齢層で最多。全圏域で最多。
- ・「道路整備」 16.6%
- ・「農林業の振興」 15.0%
→八幡浜・大洲圏域 (21.7%) 及び宇和島圏域 (22.0%) で多い。
- ・「中小企業対策」 14.2%

生活環境面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「介護・福祉サービスの充実」 37.0%
→男女共に最多。40歳代以上で最多。全圏域で最多。
- ・「物価・消費者保護対策」 17.2%
- ・「医療、保健衛生機能の拡充」 15.3% →宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域で多い。
- ・「子育て支援対策」 14.1% →30歳代以下で最多で、30歳代 (40.7%) で特に多い。

教育面で特に力を入れて欲しい施策

- ・「学校教育の充実」 30.1%
→男女共に最多。50歳代以下で最多、30歳代 (41.5%) 及び40歳代 (46.1%) で特に多い。全圏域で最多。
- ・「社会教育の充実」 19.7%

- ・「青少年の健全育成」 17.2% →60歳代以上で最多。
- ・「芸術、文化の振興」 12.7%

5 特定課題

【愛媛県イメージアップキャラクター「みきゃん」】

問29 「みきゃん」の認知度

- ・「知っている」 96.2%
- ・「知らない」 3.8%

◆特に20歳代では、「知っている」が100%。

問29-1 「みきゃん」を知った方法

- ・「新聞・テレビ・ラジオなどのニュースや番組」 87.3%
→全年齢層で最多。概ね年齢層が高い方が多い。
- ・「みきゃんのポスターやチラシ」 56.3%
- ・「イベントなどの会場で見かけた」 47.4%
- ・「県の広報誌・広報番組・ホームページ・Facebook など」 40.8%
- ・「ゆるキャラグランプリなどのホームページ」 28.4%
→20歳代 (51.4%) 及び40歳代 (45.2%) で特に多い。70歳以上 (11.6%) で少ない。

問29-2 「みきゃん」を見かける度合い

- ・「感じる」 86.7%
- ・「あまり感じない」 12.1%
- ・「まったく感じない」 1.2%

問29-3 「みきゃん」の公式サイト閲覧状況

- ・「どれも見たことがない」 84.0%
- ・「ホームページ」 13.4%
- ・「Facebook」 2.9%

問29-4 「ゆるキャラ®グランプリ2015」での投票

- ・「思う (思った)」 62.5%
→40歳代 (66.7%) 及び50歳代 (66.8%) で多い。
- ・「思わない (思わなかった)」 37.5%

問29-5 「みきゃん」に投票しようと思わない (思わなかった) 理由

- ・「グランプリ自体に興味がない (興味がなかった)」 51.1%
→50歳代以下で最多、30歳代 (66.0%) で特に多い。
- ・「投票方法がわからない (わからなかった)」 40.7%
→60歳代 (50.5%) 及び70歳以上 (53.4%) で最多。
- ・「時間的な余裕がない (余裕がなかった)」 13.3%
- ・「みきゃん以外のキャラクターに投票する (投票した)」 1.5%

【LCC (格安航空会社) に対する意識】

問30 LCCの利用状況

- ・「関西線を知っているが乗ったことがない」 44.5%
→20歳代 (36.6%)、40歳代 (54.2%)、50歳代 (49.1%) 及び60歳代 (44.3%) で最多。
→自営業 (48.7%) では同率で最多、勤め人 (48.2%) 及び主婦 (46.3%) で最多。
- ・「成田線を知っているが乗ったことがない」 43.0%
→30歳代 (54.3%) で最多。自営業 (48.7%) で同率で最多。
- ・「どちらの路線も知らない」 39.6%
→農林漁業 (46.8%) 及びその他 (50.9%) で最多。
- ・「成田線に乗ったことがある」 9.4% →20歳代 (28.2%) で特に多い。
- ・「関西線に乗ったことがある」 6.7% →20歳代 (16.9%) で特に多い。

※成田線：ジェットスター・ジャパン松山・成田線
関西線：ピーチ・アビエーション松山・関西線

問30-1 LCCを知った理由

- ・「テレビ」 62.7% →全年齢層で最多。
- ・「新聞・雑誌の広告・記事」 35.5%
- ・「インターネット広告」 19.7%
- ・「チラシ・ポスター」 10.6%

問30-2 LCCを利用したいかどうか

- ・「LCCを利用したことはない。今後も利用しない」 48.7%
→60歳代(53.9%)及び70歳以上(65.2%)で特に多い。全圏域で最多。
- ・「成田線を今後利用したい」 34.2%
- ・「関西線を今後利用したい」 33.3%
- ・「成田線を以前利用したが、また利用したい」 6.5%

問30-3 LCCを利用しない理由

- ・「安全面に不安を感じるため」 31.7%
→30歳代及び70歳以上を除く全年齢層で最多。20歳代(52.4%)で特に多い。
- ・「他交通機関を利用するため」 29.5%
→30歳代(37.5%)で最多。
- ・「他航空会社を利用するため」 24.7%
- ・「予約方法がわかりにくいと思うため」 14.6%
- ・「遅延、欠航の可能性が高いと思うため」 11.8%

◆70歳以上では「その他」が最多。

問30-4 LCCを利用したい理由

- ・「価格が安い」 90.3% →全年齢層で最多で特に多い。
- ・「到着空港が目的地に近い」 13.4%
- ・「以前利用した時に好印象だったため」 3.9%
- ・「発着時間が利用しやすい時間帯に設定されているため」 3.7%

【男女共同参画社会づくり】

問31 男女の平等意識(優遇されている)・分野別

- ・「家庭の中で」 男性優遇(46.2%)、女性優遇(7.9%)、平等になっている(34.6%)
- ・「職場の中で」 男性優遇(54.0%)、女性優遇(5.4%)、平等になっている(22.2%)
- ・「地域社会の中で(町内会、自治会など)」
男性優遇(50.4%)、女性優遇(3.4%)、平等になっている(29.1%)
- ・「社会通念や慣習やしきたりなどで」
男性優遇(69.3%)、女性優遇(1.5%)、平等になっている(15.0%)
- ・「法律や制度のうえで」 男性優遇(41.7%)、女性優遇(5.7%)、平等になっている(34.4%)
- ・「政治の分野で」 男性優遇(65.9%)、女性優遇(1.4%)、平等になっている(16.3%)
- ・「学校教育の分野で」 男性優遇(22.5%)、女性優遇(2.8%)、平等になっている(53.0%)

◆全分野で「男性の方が優遇されている」が「女性の方が優遇されている」より多く、「社会通念や慣習やしきたりなどで」(69.3%)及び「政治の分野で」(65.9%)で特に多い。

◆「学校教育の分野で」で、「平等になっている」(53.0%)が最多。

※「優遇されている」は、「非常に優遇されている」＋「どちらかと言えば優遇されている」の合計。

【自転車の安全利用】

問 32 自転車の利用状況

- ・「週1回以上、自転車を利用している」 25.1%
→20歳代 (34.7%) で多い。
- ・「月1～2回くらい自転車を利用している」 7.3%
- ・「ほとんど自転車を利用していない」 23.0%
- ・「全く自転車を利用していない」 44.7%
→全年齢層で最多で、70歳以上 (51.7%) で多い。全圏域で最多で、宇摩圏域で多い。

問 32-1 自転車でのヘルメット着用状況

- ・いつもヘルメットを着用している」 2.8%
- ・だいたいヘルメットを着用している」 3.1%
- ・ほとんどヘルメットを着用していない」 15.9%
- ・全くヘルメットを着用していない」 78.3%
→全年齢層で最多。全圏域で最多。

問 32-2 自転車の損害賠償保険の加入状況

- ・「加入している」 28.7%
→30歳代で同率で最多。宇摩圏域 (53.8%) で最多で、特に多い。
- ・「加入していない」 53.3%
→全年齢層で最多 (30歳代は同率)。宇摩圏域を除く全圏域で最多。
- ・「わからない」 18.0%
→30歳代で同率で最多。

【防災に関する意識】

問 33 家具類の固定状況

- ・「全部または大部分を固定している」 5.8%
→全年齢層で最も少なく、20歳代 (1.4%) で特に少ない。
- ・「一部のみ固定している」 36.4%
- ・「固定していない」 57.8%
→全年齢層で最多。全圏域で最多で、宇和島圏域 (66.0%) で多い。

問 33-1 固定していない理由

- ・「手間がかかる」 41.6%
→全年齢層で最多。概ね年齢層が低くなるほど多い。宇和島圏域を除く全圏域で最多。
- ・「費用がかかる」 28.2%
- ・「固定をしても被害は出ると思う」 19.5%
→宇和島圏域で (35.0%) で最多。
- ・「固定していなくても大丈夫だと思う」 17.2% →60歳代 (25.6%) で多い。

問 33-2 地震・災害時の避難判断

- ・「早期に避難する」 49.6%
→全年齢層で最多。全圏域で最多で、宇和島圏域 (63.4%) で特に多い。
- ・「早期に避難したいが、すぐには避難できない」 28.5%
- ・「すぐには避難しない」 11.0%

問 33-3 台風時等の避難判断

- ・「明るいうちに早めに自主避難する」 8.0%
- ・「「避難準備情報」の発表を知った時に避難する」 16.1%
- ・「「避難勧告」の発表を知った時に避難する」 31.6%
→全年齢層で最多。宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域を除く全圏域で最多。
- ・「「避難指示」の発表を知った時に避難する」 22.9%

- 宇摩圏域 (28.4%) 及び八幡浜・大洲圏域(27.8%)で最多。
- ・「避難勧告」や「避難指示」が発表されたとしても、避難するかどうか自分で判断する」 13.1%
- ・「避難しない」 6.4%

【エコえひめ農産物】

問 34 エコえひめ農産物の認知度

- ・「知らなかった」 59.3%
 - 男性 (62.5%) の方が女性 (57.1%) より5.4ポイント多い。全年齢層で最多。
- ・「知っているし、既に購入したことがある」 22.2%
 - 女性 (26.2%) の方が男性 (16.2%) より10.0ポイント多い。
- ・「知っている(聞いたことはある)が、まだ購入したことはない」 18.5%

問 34-1 購入したことがない理由

- ・「取り扱っている販売店がどこにあるかわからない」 45.6%
- ・「販売している店が近くにない」 22.6%
- ・「価格が高い」 15.4% →20歳代 (55.6%) で特に多い。
- ・「その他」 8.7%

【えひめ国体・えひめ大会】

問 35 えひめ国体・えひめ大会の関心度

- ・「えひめ国体とえひめ大会両方とも関心がある」 45.3%
 - 20歳代及び30歳代を除く全年齢層で最多。全圏域で最多で、宇和島圏域 (57.6%) で特に多い。
- ・「どちらも関心がない」 32.2% →20歳代 (35.2%) 及び30歳代 (42.5%) で最多。
- ・「わからない」 15.6%
- ・「えひめ国体には関心があるが、えひめ大会には関心がない」 6.0%
 - 男性 (9.0%) が女性 (4.0%) より5.0ポイント多い。
- ・「えひめ大会には関心があるが、えひめ国体には関心がない」 0.9%

問 35-1 えひめ大会に関心がない理由

- ・「開催されることを知らなかったから」 39.4%
- ・「詳しい内容を知らないから」 25.8%
- ・「自分の生活にあまり関係がないから」 18.2%
- ・「障害者スポーツに興味がないから」 9.1%

問 35-2 えひめ国体に関心がない理由

- ・「詳しい内容を知らないから」 40.0%
- ・「自分の生活にあまり関係がないから」 30.0%
- ・「開催されることを知らなかったから」 10.0%
- ・「その他」 10.0%

問 35-3 えひめ国体及びえひめ大会に関心がない理由

- ・「自分の生活にあまり関係がないから」 62.2%
 - 男女共に最多。女性 (67.1%) が男性 (53.9%) より13.2ポイント多い。全年齢層で最多で、30歳代 (75.9%) 及び50歳代 (71.6%) で特に多い。全圏域で最多で、八幡浜・大洲圏域 (73.7%) で特に多い。
- ・「特に理由はない」 12.5%
- ・「詳しい内容を知らないから」 10.8%
- ・「スポーツ(障害者スポーツを含む)に興味がないから」 9.1%

【文化財への関心度】

問36 文化財への見学状況

・「ある」 27.9% ・「ない」 72.1%

◆ 「ない」は、20歳代(83.1%)で特に多い。

問36-1 見学したことがある文化財

- ・「建造物」 68.6%
→男女共に最多(男性69.7%、女性67.9%)でほぼ同数。70歳以上を除く全年齢層で最多。
- ・「史跡・名勝地・天然記念物」 56.2%
→男性(67.2%)が女性(48.9%)より18.3ポイント多い。70歳以上(59.7%)で最多。
- ・「絵画・彫刻・古文書等の美術工芸品」 32.7%
- ・「伝統芸能・祭礼・年中行事等の民俗文化財」 30.4%